朗読クラブ

練習のようす（図書館　にんじん畑にて）

小学生のみなさん
毎月第3水曜日　16:00～17:00
練習を行っています。（発表会前は毎週になります）
一緒にやってみませんか！
見学もOKです。

いつでも
会員募集中
お問い合わせは事務局まで

今年度も引きつづき、五月から朗読クラブが始まりました。　今までは「日高の民話」と「土佐弁」に対する強い思いから、それを中心に進めてまいりましたが、今年は、『もっと楽しく面白く』をモットーに新しい事にも、取り組んでいきたいと思います。
子供はやはり読むことが好きです。自分が読んで面白かった本　感動した本を、他の子供たちに「読み聞かせ」をしてお互いに楽しんでもらえたらと考えております。「読む基本」の勉強も入れて身につけていきましょう。
五月の勉強会では、漢字交じりの指導書を、子供が上手に読んでくれたのには驚かされました。
今年の「文化祭」、来年の酒蔵の「ひな祭り」は、（酒蔵でのひなまつりにて発表する予定ですので）大いに楽しんで頂けることと思います。ご期待下さい。

おすすめの1冊

『ゾマーさんのこと』　パトリック・ジュースキント
ジャン＝ジャック・サンペ　絵　・　池内　記　訳

児童書の書架でこの本に出会いました。ちょっとおすすめしたい１冊です。
ぼくの少年時代の思い出の日々は、ゾマーさんという不可思議な人の道筋とぼくの成長する線がどこかで交差していた。ぼくが何かにつまづき絶望した時、なにもかも嫌になり、木からつい落して死んでしまいたいと思った時、好きな女の子に約束を破られた時。いつも目の前をゾマーさんがスタスタと３本足で通り過ぎていった。ゾマーさんは日の出から、日没まで１日だって休むことなく、クルミの杖と空のリュックを背負ってたえず３本足で歩きまわる。その行動は、誰にも解らない謎だった。しかし、少年のぼくはその不可思議な姿に恐れながらもひかれていく。日暮れに自転車を飛ばして走るぼくの前に湖が広がり、その中にゾマーさんが２本の足で、どんどん進んで行く様子が見えた。少年がかつて森の中でさいたうめき声。雨の中でふるえていた唇。「ほっておいてもらいましょう！」のあのひと言。少年は声をかけず、静かに見送った。少年だけが、ゾマーさんの表情を理解し見てとったのである。
自然描写の美しさと挿絵の軽妙が、この本を一層味わい深いものにしてくれている。